

千葉県八千代市

麦丸遺跡 h 地点

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2011

株式会社スワロ
八千代市教育委員会

凡 例

1. 本書は、八千代市教育委員会が平成22年度民間開発等埋蔵文化財調査事業として実施した発掘調査の報告書である。本整理及び報告書作成作業は、平成23年度事業として行った。
2. 本書に収録した発掘調査は、宅地造成に伴うもので、事業者である株式会社スワロの委託を受けて実施した。
3. 遺跡名は、麦丸遺跡h地点、所在地は、千葉県八千代市大和田新田字麦丸台649番9である。
4. 調査及び整理は、以下のとおり実施した。
確認調査 平成22年度市内遺跡調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した。
期間 平成23年1月24日～1月28日 面積200㎡/1,986.59㎡
本調査 期間 平成23年2月14日～2月16日 面積11㎡
本整理 期間 平成23年5月16日～平成23年10月31日
5. 遺構Noは、数字と記号（アルファベット）の組合せで表記した。記号は、以下のとおりである。
土坑 P
6. 参考文献一覧は、第3章末に掲載した。
7. 出土した遺物のほか、写真・図面等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。
8. 本書の図版作成は、常松成人・山下千代子が行い、編集・執筆は常松が担当した。



八千代市の位置



麦丸遺跡の位置

目 次

凡例

目次

挿図・表目次

写真図版目次

第1章 調査経過及び概要	第2節 古墳時代の遺構・遺物	7
第1節 調査に至る経緯と調査の概要	第3章 成果と課題	8
第2節 麦丸遺跡の概要	写真図版	13
第2章 検出された遺構と遺物	報告書抄録	16
第1節 縄文時代の遺構		

挿図・表目次

第1図 麦丸遺跡周辺図	第7図 3P土坑実測図	7
第2図 明治時代の麦丸遺跡周辺	第8図 双孔円板実測図	7
第3図 麦丸遺跡周辺の地形	第9図 八千代市内の石製模造品出土遺跡 分布図	10
第4図 麦丸遺跡h地点遺構配置図	第1表 八千代市内の石製模造品出土遺跡	11
第5図 1P土坑実測図		
第6図 2P土坑実測図		

写真図版目次

図版1 1P土坑、2P土坑	図版2 3P土坑、遺跡近景、双孔円板	15
---------------	--------------------	----

第1章 調査経過及び概要

第1節 調査に至る経緯と調査の概要

平成22年12月、株式会社スワロ代表取締役大矢赫子氏（以下「事業者」という。）から大和田新田字麦丸台の宅地造成事業のための「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の依頼が八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。確認地の現況は栗林地で地表面に遺物は確認されなかったが、周知の埋蔵文化財包蔵地（麦丸遺跡）内であり、同遺跡内においては遺構・遺物が検出されている。市教委は、「周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、文化財保護法（以下「法」という。）第93条に基づく届出が必要」であること、「その取扱いについて協議したい」旨を回答し、協議を行った。その結果、事業の進捗のために確認調査を行うこととなった。同月、事業者は法第93条の届出を提出し、調査に先立って栗の木をすべて伐採した。市教委は平成23年1月24日に確認調査を開始した。

確認調査 確認調査は、平成22年度の市内遺跡調査事業として国庫及び県費の補助を受けて行った。麦丸遺跡h地点として対象面積1,986.59㎡のうち200㎡を調査した。その結果、遺構として縄文時代の陥穴1基・土坑1基、古墳時代の土坑1基を、遺物として古墳時代土師器・石製模造品（双孔円板）等をそれぞれ確認した。（第4図・第8図）。

本調査 確認調査の結果、土坑3基が所在する11㎡を記録保存の必要な範囲とした。盛土保存が可能かなどを含め協議し検討した結果、記録保存の措置をとることとなり、事業者は市教委に本調査経費の見積もりを依頼した。市教委は、平成23年2月4日付けで調査の見積りを提示した。事業者は同日付けで八千代市長（以下「市」という。）に調査依頼書を提出した。市は平成23年2月8日付けでこれを受託し、同日付けで市・市教委・事業者の三者間で埋蔵文化財の保存措置に関する協定を締結した。年度末に近い時期であるため、本整理については、翌年度に実施することとし、2月9日付けで市と事業者間で本調査の委託契約を締結した。発掘調査に必要な測量基準杭の設置を、事業者が提供作業として実施し、準備の整った2月14日に市教委が本調査を開始した。

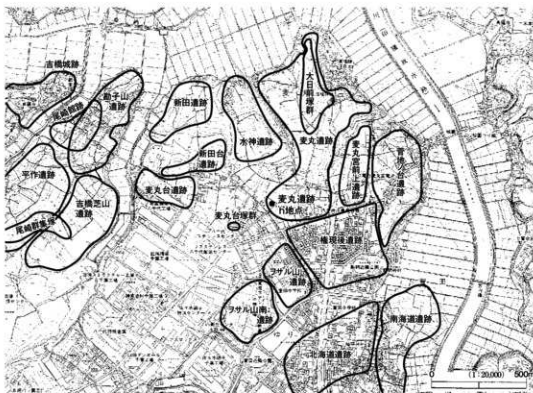
本調査は、土坑3基分の11㎡を対象として行った。測定の基準となる杭は、磁北に合わせた任意の位置に設置した。人力で掘削しつつ、適宜写真撮影と図面作成、光波測距儀によって記録をとりながら発掘をめざした。

調査経過は、2月14日機材搬入、調査前状況写真撮影。14日～16日遺構調査。14日3P土坑調査終了。15日2P土坑調査終了。16日1P土坑調査終了、機材撤収で調査を終了した。

第2節 麦丸遺跡の概要

遺跡の立地 麦丸遺跡は、市域の中央部、新川西岸の麦丸支台上にある。新川谷とその支谷である栄重谷津、桑納川谷とその支谷である基左衛門谷津によって画された台地上一帯が遺跡で、標高は24m以下である。h地点は、遺跡の南西端の標高23.2～23.8mの平坦地に位置する。

これまでの調査 麦丸遺跡は、昭和45年～47年にかけて実施された千葉県立八千代高等学校史学会による遺跡分布調査のなかで発見された。この分布調査の成果は、昭和47年に八千代市教育委員会から「八千代市遺跡分布調査概要」として刊行された。これによれば「34麦丸遺跡、散布地、縄文・土師器・古墳消滅 土偶片出土」となっており、位置は現在の遺跡範囲の中の北端部が示されている。今回の調査地の付近には、西方に「34麦丸台塚、2基・方形」が示されている。昭和53年刊行の「八千代市の歴史」では、麦丸遺跡の範囲は南～東に大きく広げられた。昭和58年刊行の八千代市埋蔵文化財包蔵地所在調



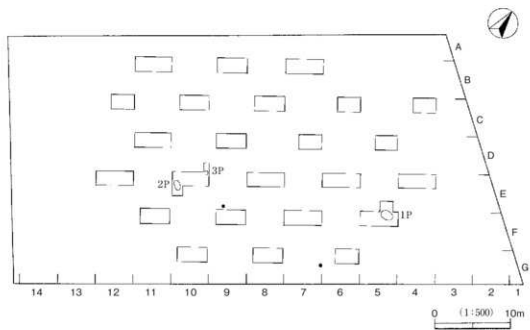
第1図 麦丸遺跡周辺図



第2図 明治時代の麦丸遺跡周辺 (明治15年迅速測図に加筆)



第3図 麦丸遺跡周辺の地形



第4図 麦丸遺跡h地点遺構配置図

査の報告書「八千代の遺跡」では、麦丸遺跡が148高野堀込遺跡・149大日前遺跡・151米本道南遺跡・152麦丸宮前遺跡・153麦丸宮前上遺跡・154城橋遺跡に分割され、さらに大日前遺跡・麦丸宮前遺跡に重複して150大日前塚群が分布するという状況が示された。このときには、今回の調査地点は米本道南遺跡の範囲に含まれていた。平成9年の千葉県埋蔵文化財分布地図の改訂版で、再び麦丸遺跡が復活し、大日前遺跡・高野堀込遺跡・麦丸宮前遺跡・米本道南遺跡を統合して151麦丸遺跡とされた。因みに153麦丸宮前上遺跡はそのまま、城橋遺跡は179管地ノ台遺跡に統合された。

麦丸遺跡では過去7地点の調査が行われている。a地点・b地点は、八千代市農協本店及び農政センター建設に伴うもので、遺跡南端に位置し、縄文時代後期加曾利B式土器片を中心に、中期阿玉台式・加曾利E式、後期堀之内式、土器片鉢、石核、削器、奈良・平安時代土玉、近世・近代のすり鉢、煙管などが出土した。c地点・e地点は、農道舗装に伴うもので、遺跡北側の台地縁辺部に位置する。c地点では溝状遺構が検出され、縄文土器、古墳時代土師器の小片を採集した。e地点では、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡1軒などが検出された。d地点は、資材置場建設に伴うもので、遺跡北西部の台地縁辺部に位置し、縄文時代早期炉穴1基、溝状遺構、縄文土器（早期～後期）、石鏃などが検出された。f地点は、携帯電話通信鉄塔建設に伴うもので、遺跡中央西側の台地縁辺部に位置し、黒曜石剥片1点のみ出土した。g地点は、宅地造成に伴うもので、h地点北方の住宅地内に位置する。土層の遺存状態が悪く、遺構・遺物とも検出されなかった。この他に、本遺跡の範囲内に塚が1基あり、290金塚所在塚として倉庫建設に伴い調査された。近世の塚と判断されたが、溝状遺構が検出され、縄文土器と土師器の小片などが出土した。

周辺の遺跡 東に隣接する麦丸宮前上遺跡では、これまで3地点が調査され、奈良・平安時代の竪穴住居跡6軒が検出されている。南には権現後遺跡があり、土地区画整理に伴う大規模調査や八千代市文化伝承館建設に伴う調査が行われ、旧石器時代の石器やブロック、縄文土器（早期～後期）、弥生時代後期の遺物・竪穴住居跡、古墳時代前期・中期・後期の遺物・竪穴住居跡、奈良・平安時代の遺物・竪穴住居跡・掘立柱建物跡、近世の土坑、時期不明の溝跡などが検出されている。

h地点の北東約80mの道路北には麦丸庚申塚があり、元文5（1740）年11月17日造立の青面金剛などが建てられている。

南に権現後遺跡を初めとする萱田遺跡群があり、東隣の麦丸宮前上遺跡では古代集落跡の存在が明らかとなっている。これらの遺構・遺物密度の高い遺跡の近隣にあって、麦丸遺跡は比較的密度の低い遺跡と認識され、少量の遺物や土坑などの小規模遺構が散漫に分布しているものと推察する。

第2章 検出された遺構と遺物

今回調査対象としたのは、土坑3基である。それぞれについて以下に報告する。

第1節 縄文時代の遺構

1 P土坑 (第5図)

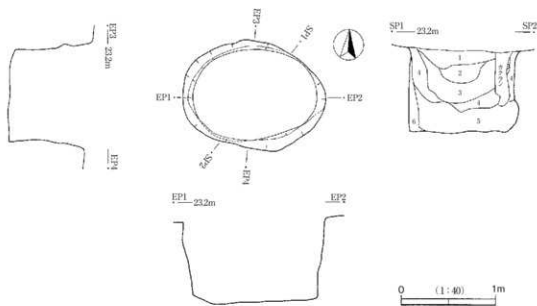
位置 調査区東側のF-5トレンチで検出された。**平面形態** 楕円形。**底面形態** 楕円形で、底面に若干凹凸がある。**壁の状態** ほぼ垂直に掘られており、オーバーハングする部分もある。**規模** 長軸東西方向1.51m×短軸南北方向1.13m、深さ80～89cm。上端の標高は22.89～23.04m、底面の標高は22.13～22.22m。**覆土** 1：7.5YR 3/3 (暗褐色土)。4/3 (褐色土)を斑状に含む。緻密度17～20。径2mm以下の黄色スコリアをまばらに含む。2：7.5YR 3/3 (暗褐色土)。4/3 (褐色土)がにじむ。緻密度19～22。径2mm以下黄色スコリアをまばらに含む。3：7.5YR 3/3 (暗褐色土)・4/3・4/4 (褐色土)が混じり合う。緻密度17～19。径2mm以下の黄色スコリアをまばらに含む。4：7.5YR 4/4・4/3 (褐色土)。緻密度16～18。ローム混じり。5：7.5YR 4/4・4/6 (褐色土)。緻密度17～18。ローム混じり。径20～40mmのロームブロックをまばらに含む。6：全掘時に掘り広がった部分。**出土遺物** なし。

所見 確認調査時、F-5トレンチ北西壁等の観察で、本遺構の上面を新期富士テフラ層が覆っていると判断した。縄文時代の狩猟用陥穴のあり方とよく似ていると考えたが、完掘した結果、円筒状の土坑となった。近年では、八千代市桑納前畑遺跡b地点において検出され、報告書で第2類とされた「長軸1.2m程度の短楕円もしくは不整形の平面形で、深さ0.8m前後の円筒形の形態」の土坑に類似している。第2類土坑は、21基検出され、遺物は縄文中期加曾利E4式土器が主体で、他に小型磨製石斧や磨石が伴うものもあった。用途は土坑墓と推測した。

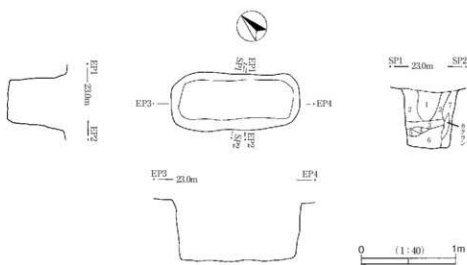
2 P土坑 (第6図)

位置 調査区中央やや南西寄りのE-10トレンチで検出された。**平面形態** 長方形。**底面形態** 長方形。ほぼ平坦。**壁の状態** ほぼ垂直に掘られている。**規模** 長軸北西-南東方向1.36m×短軸北東-南西方向0.59m、深さ58～64cm。上端の標高は22.74～22.79m、底面の標高は22.13～22.18m。**覆土** 1：7.5YR 4/3 (褐色土)～3/4 (暗褐色土)。4/4 (褐色土)を斑状に含む。緻密度15～17。径1～2mmの黄色スコリアをまばらに含む。2：7.5YR 4/4 (褐色土)。4/3 (褐色土)がにじむ。緻密度15～18。3：7.5YR 4/3 (褐色土)。緻密度17～18。4：7.5YR 3/3 (暗褐色土)。緻密度15。5：7.5YR 4/4 (褐色土)。緻密度16。6：7.5YR 3/3 (暗褐色土)。4/3・4/4 (褐色土)を雲状に含む。緻密度16～17。7：7.5YR 4/6 (褐色土)。緻密度17～18。**出土遺物** なし。

所見 確認調査時、E-10トレンチ南東壁等の観察で、本遺構の上面を新期富士テフラ層が覆っていると判断した。1 P土坑と同様に縄文時代の遺構のあり方とよく似ていると考えた。検出時は平面規模が小さい不整形に見えたが、完掘した結果、比較的整った長方形の土坑となった。その形態から考えて、小児伸展葬の土坑墓ではないかと推測する。



第5图 1P土坑实测图



第6图 2P土坑实测图

第2節 古墳時代の遺構・遺物

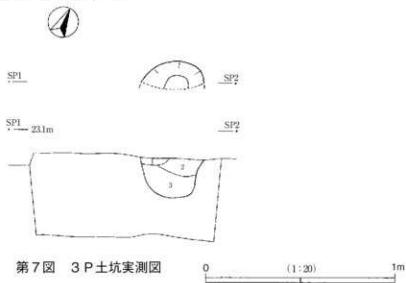
3P土坑（第7図）

位置 調査区中央やや南西寄りのE-10トレンチの北西壁の断面で検出された。このため、ほぼ半分は掘りすぎてしまい、二分の一を調査したのみである。**平面形態** 円形と推定する。**底面形態** 円形と推定する。**規模** 確認調査時のトレンチ土層断面上では北東-南西方向0.42m、深さ30cmであった。上端の標高は23.04mであった。本調査では北東-南西方向0.33m×北西-南東方向0.15m、深さは、平面プランが明瞭になるまで表土を削った結果、21cmとなった。**覆土** 1：7.5YR 4/3（褐色土）。緻密度14。2：7.5YR 4/4（褐色土）。緻密度17。3：7.5YR 4/3・4/4（褐色土）。緻密度20～22。ロームがにじむ。**出土遺物** なし。

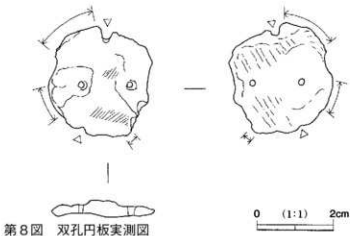
所見 確認調査時、E-10トレンチ北西壁等の観察で、本遺構が新期富士テフラ層を切っていると判断した。遺構からは遺物は出土しなかったが、同トレンチから土師器が出土し、南西のE-12トレンチからは石製模造品（双孔円板）が出土した。根拠は弱いが、古墳時代中～後期の遺構と判断した。

石製模造品（双孔円板）（第8図）

出土位置 確認調査時にE-12トレンチから出土した。凹凸のある欠損品である。**石材** 滑石、色暗灰色。**計測値**：最大幅30.5 mm、最大長残存28 mm、厚さ2～4 mm、重量5.6 g。**観察** 側面には部分的に磨きの痕跡があり矢印で範囲を示した。片面穿孔。両面に磨きが観察されるが、凹凸が激しい。図の側面に△で示したのは、縄文土器片鏝に見られるような抉りである。二か所一対となっているが、上方は明瞭、下方はやや不明瞭である。



第7図 3P土坑実測図



第8図 双孔円板実測図

第3章 成果と課題

遺構・遺物密度の低い本遺跡において、遺構を捉えることは困難であるが、今回、複数の遺構を把握できたことは貴重な成果と言えよう。

1 縄文時代の遺構

1 P土坑は、平面形が楕円であるが、縄文時代の円筒状に掘られた土坑の類例に近いものである。近年では、八千代市桑納前畑遺跡b地点において、中期加曾利E4式土器を伴って、この種の土坑が21基検出されており、土坑墓と推測した(市教委2010年)。今回の事例は、遺物が全く伴わず、時期を特定することはできないが、大きさや覆土の上層が暗褐色土、下層がロームまじりの褐色土となる点が桑納前畑遺跡例と類似している。

2 P土坑は、覆土の状態が1 P土坑とは逆で、上層が褐色土、下層が暗褐色土である。その形態・大きさから考えて、小児伸展葬の土坑墓と見るのが妥当ではないか。1 P土坑とともに興味深い事例である。

本遺跡において、この種の土坑が検出されたのは、初めてである。h地点では縄文時代の遺物をほとんど検出できなかったが、今後周辺の調査時に参考となる遺物等を検出できるよう注意する必要がある。

2 古墳時代の遺構

小規模な土坑1基と、確認調査時に出土した石製模造品(双孔円板)とを合わせ、古墳時代の成果とした。今後周辺の調査時に注意が必要である。なおこの双孔円板の欠損部には抉りのようなものが一対見られる。再利用されたものであろうか、類例を待ちたい。

第1表及び第9図に八千代市内における石製模造品の出土遺跡を示した。特筆されるのは、萱田地区の北海道遺跡を初めとする石製模造品の工房跡群である。また石枕が副葬されていた神野芝山4号墳(石枕は八千代市指定文化財、古墳は消滅)も古墳時代中期の重要遺跡である。同時代の代表的集落跡としては、川崎山遺跡(堅穴住居跡35軒)、北海道遺跡(同22軒)、浅間内遺跡(同16軒、但し前期末・後期初頭を含む)が挙げられ、他に道地遺跡や向境遺跡とその周辺での発見の増加が期待される。麦丸遺跡は、同時代の中心地である萱田地区に近い、h地点を嚆矢としてこれからの資料の増加に期待したい。

参考文献

- 八千代市教育委員会(1972年)『八千代市遺跡分布調査概要』
- おおびた遺跡調査団(1975年)『おおびた遺跡—八千代市少年自然の家建設地内遺跡』
- 財団法人千葉県都市公社(1975年)『八千代市村上遺跡群1974』
- 八千代市史編さん委員会(1978年)『八千代市の歴史』
- 八千代市遺跡調査会(1980年)『萱田町川崎山遺跡』八千代市都市計画街路3,4,9号線建設工事に伴う発掘調査報告書
- 八千代市遺跡調査会(1982年)『千葉県八千代市麦丸遺跡』(a地点・b地点)
- 八千代市教育委員会(1983年)『八千代の遺跡—千葉県八千代市埋蔵文化財包蔵地所在調査報告書—』
- 財団法人千葉県文化財センター(1984年)『八千代市権現後遺跡—萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅰ—』
- 財団法人千葉県文化財センター(1985年)『八千代市北海道遺跡—萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅱ—』
- 八千代市教育委員会(1986年)『千葉県八千代市平戸道地遺跡—農業道路敷設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』

査報告書一]

財団法人千葉県文化財センター（1987年）『八千代市井戸向遺跡』—荳田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅳ—
財団法人千葉県文化財センター（1991年）『八千代市白幡前遺跡』—荳田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅴ—
財団法人千葉県文化財センター（1997年）『千葉県埋蔵文化財分布地図（1）—東葛飾・印旛地区（改訂版）—』

八千代市川崎山遺跡調査会（1999年）『千葉県八千代市川崎山遺跡—埋蔵文化財発掘調査報告書—』

八千代市教育委員会（2002年 a）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成13年度』（d 地点）

八千代市教育委員会（2002年 b）『千葉県八千代市不特定遺跡発掘調査報告書 1』（金塚所在塚）

八千代市教育委員会（2003年）『千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書』（c 地点）

八千代市遺跡調査会（2003年）『千葉県八千代市川崎山遺跡 d 地点—荳田町川崎山土地区画整理事業に先行する埋蔵文化財発掘調査報告書—』

財団法人千葉県文化財センター（2004年）『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書 2—八千代市道地遺跡—』

八千代市遺跡調査会（2004年 a）『千葉県八千代市川崎山遺跡 h 地点—店舗建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—』

八千代市遺跡調査会（2004年 b）『千葉県八千代市向境遺跡』（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

八千代市教育委員会（2007年 a）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度』（f 地点）

八千代市教育委員会（2007年 b）『千葉県八千代市浅間内遺跡発掘調査報告書 平成18年度』

八千代市教育委員会（2007年 c）『千葉県八千代市権現後遺跡—公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ—』

八千代市遺跡調査会（2007年）『千葉県八千代市浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡』八千代市辺田前土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書

八千代市教育委員会（2008年）『千葉県八千代市川崎山遺跡 n 地点発掘調査報告書—它地開発事業に先行する埋蔵文化財発掘調査—』

八千代市遺跡調査会（2008年）『千葉県八千代市小板橋遺跡—b 地点埋蔵文化財発掘調査報告書—』

八千代市教育委員会（2009年 a）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度』

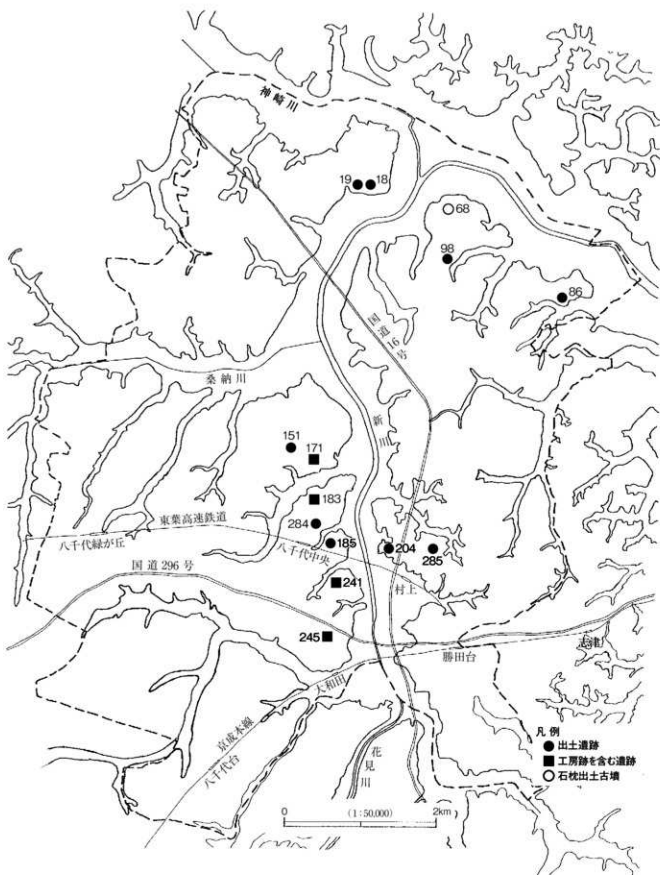
八千代市教育委員会（2009年 b）『千葉県八千代市道地遺跡 e 地点・平戸台 8 号墳—資材置場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』

八千代市教育委員会（2010年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成21年度』

八千代市史編さん委員会（2006年）『八千代市の歴史 資料編 近代・現代Ⅲ石造文化財』

財団法人千葉県教育振興財団 文化財センター（2006年）『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書 5—八千代市島田込ノ内遺跡（2）・間見穴遺跡（3）・道地遺跡（2）—』

八千代市教育委員会（2010年）『千葉県八千代市桑納前畑遺跡 b 地点発掘調査報告書』

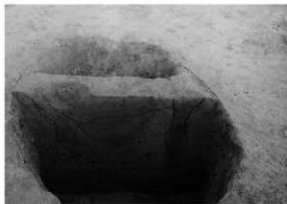


第9図 八千代市内の石製模造品出土遺跡分布図 番号は市道跡No.

写真図版



(1) 1P土坑検出状況



(2) 1P土坑土層断面



(3) 1P土坑完掘状況-1-



(4) 1P土坑完掘状況-2-



(5) 2P土坑検出状況



(6) 2P土坑土層断面-1-



(7) 2P土坑土層断面-2-



(8) 2P土坑完掘状況



(1) 3P土坑検出状況



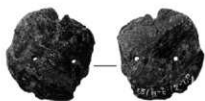
(2) 3P土坑土層断面



(3) 3P土坑完掘状況



(4) h地点近景



(5) 石製模造品(双孔円板)

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばげんやちよし むぎまるいせき えっちちてん								
書 名	千葉県八千代市麦丸道跡h地点								
副 書 名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書								
編 著 者 名	常松成人								
編 集 機 関	八千代市教育委員会								
所 在 地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 TEL 047(483)1151代表								
発行年月日	2011年10月31日								
ふりがな 所収道跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因	
		市町村	道跡番号						
マクワシノミチ 麦丸道跡 h地点	マクワシノミチ 八千代市大和田新田字 麦丸台649番9	12221	151	35度 44分 24秒	140度 6分 4秒	20110214 ～ 20110216	11	宅地造成	
所収道跡名	種別	主な時代	主 な 道 構		主 な 道 物		特記事項		
麦丸道跡 h地点	包蔵地	縄文時代 古墳時代	土坑2基 土坑1基		なし				
要 約	<p>麦丸道跡は、遺物・遺構とも分布が確と判断される遺跡である。その中において、h地点では、3基の土坑を捉えることができた。</p> <p>縄文時代と考えられる土坑は、平面楕円形で円筒状に掘られたものと平面長方形のものがあり、共に良好な土坑である。土坑墓の可能性があり、今後周辺での調査によって時期決定の参考となる資料の発見に努める必要がある。</p> <p>また、確認調査で出土した石製模造品（双孔円板）と合わせ、古墳時代と考えられる小土坑が発見された。今後周辺での調査時にも注意を払い、新発見が得られるよう努めて行く必要がある。</p>								

千葉県八千代市 麦丸遺跡 h 地点

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行日 平成23年10月31日
編集 八千代市教育委員会 教育総務課
〒276-0045 八千代市大和田138-2
TEL 047-483-1151
発行 株式会社スワロ
印刷 金子印刷企画